



No. 21 十・十一月合併号

発行所 東京都中央区築地3~1 (本願寺内) 全日本仏教会 電話 (54) 0313番

発行人 岩野真雄 集人 高橋忠雄 編所 栄昌堂印刷工業株式会社

印刷所 栄昌堂印刷工業株式会社 購読料 一部12円 1ヶ年分 150円(送共)

第四回世界仏教徒会議

日本派遣団決定す

多彩な顔ぶれ 十一月十日夜羽田を出發

一昨年ビルマ国ランゲーンに於て開かれた才三回世界仏教徒会議に引き続き来る十一月十五日よりヒマラヤ霊峯で世界的に有名なネパール国カトマンズに於て仏紀二千五百年を記念して、才四回世界仏教徒会議が開催される事は屢報した通りであるが全仏当局及び関係各方面の準備と協力の結果齋々全日仏代表が夫々の全国各宗派団体からの推薦の上慎重なる詮衡會議の結果、去る十月三日外務省より人員のわくの正式通知があり、之に基き最終詮衡會議常務理事會を経て遂に決定を見たのである。今回の入選に付ては前回の轍をふまざる様爾前に色々注意が払われ、真に仏教代表として相応わしき人物を云う点で詮衡を急いでいたがインドに於けるユネスココンボジウム等とちか合つた為人選の最終決定には仲々の困難が伴つたわけである。然し決定せられた人名を見るに何れも学識経験人格に於て代表としてふさわしき立派な人物である事を信じている。日本及び日本仏教の現況からしてかゝる多数の代表を送る事は誠に意義深いもので恐らく今後は到底望めない事であろう。決定された以上又これらの代表が何れも自ら希望をした人々のみである故今後全幅の努力と奮闘をせられ、無事任務を遂行せられん事を祈るのみである。又代表各位が夫々の立場で充分実力を發揮し、いやしくも全日本仏教徒の代表として名実共にふさわしき言動をとられ、アジア各国仏教徒の中心として活躍せられん事をその壯図を祝すると共に全日本の仏教徒は代表各位の言動を全幅の信頼をこめて注目している事を銘記して頂きたい。

仏紀二千五百年記念としてネパール王国において開催される才四回世界仏教徒會議はいよ／＼十一月十五日から七日間カトマンズ市王宮においてマヘンドラ国王の司會で三十六ヶ国代表五百余名参加のもとに盛大に行われ

る。全仏では各宗派各団体より推薦された代表六十余名より詮衡委員會で一応四十名を内定し外貨の割当を外務大蔵両省へ申請した。

大蔵省では會議の重要性は認めるが大人数の派遣は外貨の国策上非常に難しいとの返答があり事務局では苦慮していた。

国際局ではこれが達成のため担当局長が連日猛運動を行い石橋通産大臣、高橋大蔵大臣代理にも面談し日本代表団四十名の線を確認するために奔走して来た。かくて去る十月三日派遣団四十名のわくが外務省より正式許可になつた。そこで全仏当局

は去る九日午後二時よりの最終詮衡會議に於て慎重検討し、更に十一日の全仏常務理事會にかけて個々の入選に関して各方面から充分協議を加えた結果別記の通り四十名の最終決定を見るに至つた。

なお日本代表団の出發は十一月十日夜十一時五十九分の日航機で羽田発に決定した。ネパール會議の日本側提案も前記の通り議案委員會で決定したので理事會の議を経て提案することになつてゐる。

同代表団はネパール大会終了後引つゞき二班に分れ十一月二十四日からインド・ニューデリー市において開催される仏教主義ユネスココンボジウムに出席する班と仏蹟巡拝の班に分れて行動し、十二月十五日カルカッタに集合十二月十七日羽田帰着の予定である。



阿部国際局長談

阿部 仏紀二五〇〇年慶祝の年に偶々ネパールに於ける才四回世界仏教徒會議に日本代表団が参加出来た事は、南方仏教圏に大きなウエートを持つ我々仏教徒にとつても大行事であると共に之がお世話をさせて頂いた全仏としても国際親善の上に重要な誇りを果したものと、いさゝか喜びに耐えない処であります。それと時を同じうしてインドに於てユネスコ會議が開かれ、之れにも亦全員が参加出来る事になつた事は重ねて意義深いこと、喜んでゐる次第であります。

この両會議を通じて日本仏教徒の主張すべきものは、かねてからの研究討議に則り、充分述べて相互に理解を深め、民族、國境を越えて仏陀の正法弘通に大きな成果をあげてもらいたい。會議中代表団としての使命を果すことは勿論、いやしくもその言動に於ては全日本仏教徒の代表としての誇りを傷つけぬ様長老、団長のもと、終始一貫した行動をとつて頂きたいことを重ねて希望するものであります。

今回幾多の困難を排除して多数の代表派遣に成功した事は、外務大蔵文部両当局を始め関係各方面の御理解ある計らいによる事は勿論であるが、今後は外貨その他の関係で齋々困難になるであろうことを推察して、代表団の各位の御自重を望み往復共魔事なく全員そろつて無事帰朝されん事を念願して居ります。

ネパール大会日本側議案

- 一、原始仏教と發展仏教との相互理解とその研究をしよう。
- 一、世界平和の為に原水爆禁止運動を促進しよう。
- 一、國際間に於ける不妄語戒の嚴守を要望しよう。

全日本仏教会ネパール・インド派遣団

(順不同)



網代智海 (長老)
真言宗、豊山派
管長
奈良県磯城郡初瀬町七三一ノ一



古川大航 (長老)
臨濟宗妙心寺派
同派管長
京都市右京区花園町七ノ三



金山稔昭 (長老)
高野山真言宗、前管長
和歌山県伊都郡高野町大字高野山通寺



木村日紀 (長老)
日蓮宗、立正大
学名誉教授
東京都杉並区高円寺一ノ三二



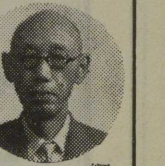
本多喜禪 (派遣)
曹洞宗、大本山
永平寺監院
福井県吉田郡志比村大本山永平寺



結城令聞 (副団長)
浄土真宗本願寺
派、東京大学教
授 (文博)
東京都世田谷区太子堂町四〇〇ノ一八号



浄土真宗本派、全
日本仏教会組織
局長
東京都荒川区
南千住二ノ九
浄開寺



岩野真雄 (事務長)
浄土真宗本派、全
日本仏教会組織
局長
東京都荒川区
南千住二ノ九
浄開寺



小島賢道
全日本仏教婦人
連盟、同連盟常
務理事
神奈川県川崎市
瀬田二三五四



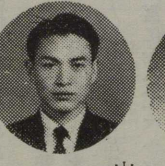
鬼原素俊
仏教同志クラブ
画家
東京都渋谷区代
々木初台六二一



川島さた
全日本仏教婦人
連盟、同連盟理
事
大阪府西区土佐
堀通一ノ三〇



石井真峰
静岡県仏教会、
静岡大学教授
静岡岡富土ノ宮
大宮頂一寺



山口光盛
全日本仏教学生
連盟、同連盟理
事
東京都台東区御
徒町三の二四
健青会気付



伊藤真城
高野山真言宗、
高野山大学教授
和歌山県伊都郡
高野町大字高野
山天徳寺



石川存静
日蓮宗、宗会副
議長
東京都大田区
池上本町八三
中道院



岩野真雄 (事務長)
浄土真宗本派、全
日本仏教会組織
局長
東京都荒川区
南千住二ノ九
浄開寺



難国五郎
九州大学仏教青
年会
福岡県戸畑市
参宮通り



中山理々
全日本仏教讚仰会
常務理事
東京都北区赤羽
法町三ノ一二五
善寺



関尚道
新義真言宗、同
宗教務課主事
東京都江戸川区
平井三ノ一九九
〇



鈴木錦吾
インド大菩提会
会員
名古屋市中村区
岩塚町神田一三



隅屋吉二
日本仏教讚仰会
同会理事
東京都北多摩郡
東村山町字大岱
八九



桜井鎔俊
石川県仏教会、
明泉寺住職
石川県鹿島郡崎
鹿島町尾崎



田中車一郎
幹柱会、同会主
幹柱会
東京都江戸川区
一之江四ノ一三
国柱会



児玉龜太郎
日本山妙法寺
熊本県上益城
郡甲佐町吉田



南谷恵澄
和宗、四天王寺
渉外部長
大阪府天王寺区
悲田院町三二



増永靈鳳
曹洞宗、駒沢大
学教授 (文博)
東京都大田区新
一井宿二ノ一七二



藤井日達
日本山妙法寺、
同寺代表者
東京都渋谷区神
泉町三〇



古田紹欽
日本印度学仏教
学会、教育大学
日奈川県鎌倉市
神奈川内田賞寺
正の伝庵



舟橋一哉
真宗大谷派、
大谷大学教授
愛知県豊橋市
花園町五〇



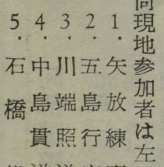
野依秀市
衆議議員連盟、
総務員、自民党
東京都港区芝公
園七号地三



野間秀泉
妙見宗、同宗管
長
大阪府豊能郡東
郷村字野間中七
一八



野口辰五郎
真言宗豊山派檀
信徒会長、東京
都議
東京都江戸川区
小松川三ノ六八



矢野亮 (ピルマ)
五島行宣 (ピルマ)
川端照道 (インド)
石橋貫道 (セイロン)
裕 (イギリス)



岩本正樹
宮城県仏教徒連
盟副会長
仙台市元小路
一四六



山口貴美子
全日本仏教婦人
連盟、同連盟
理事
東京都練馬区南
町一ノ三四六四



山本杉
全日本仏教婦人
連盟、同連盟理
事長
東京都北多摩郡
久苗米村南沢



室伏佑厚
日蓮宗、石橋通
産大臣秘書
静岡県三島市
一〇四二ノ一



村沢義二郎
石川県仏教会、
弁護士
石川県果実市
上胡桃町三〇



村野宣忠
ヤングイースト
社、全日本仏教
会国際委員
神奈川県鎌倉市
材木座三三

尙現地参加者は左の通り。

全仏メツセージ

今回パールに於て、才四回世界仏教徒會議が開かれることは、世界史の上に於ける仏教徒の使命を果たす意味で、劃期的な意義を持つものである、刻下の世界は辛うじて力の均衡に於て支えられており、一步誤れば人類の絶滅を招来する。真に戦慄すべき次の瞬間が待ち受けておるのである。それに付けても喫緊な問題と思われるのは、力の均衡ではなく内部からほんとうの平和愛好の精神を盛り上げることであろう。上下三千年の東洋の歴史を通貫し、現在アジア人の大半の精神的原理となつておる仏教の慈悲の精神こそは、この世界の危局を匡救する唯一の鍵であると信ずる。われわれは、猶予することなく、この精神を世界に拡充するために、一致団結してこれに当たる覚悟をもたなければならぬ。かくして、世界の危局を切り替えて健全にして平和な世界へと、転換し得るものと確信する。

ここに、才四回世界仏教徒會議の開催にあたり、日本仏教徒の総意を代表して、會議の成功を祈る。
全日本仏教会

観光施設税遂に許可

波乱を呼ぶも全仏の斡旋で

かねてより京都に於ける観光施設税反対斗争に立ち上つている京都古文化保存協会では、益々社寺側の結束を固めると共に自治庁を始め各方面に対して陳情を続けていたが、右法案が遂に市会を通過し今や京都府知事の副申書を以て自治庁長官の許可を得る段階に突入した為去る九月三日妙法院門跡三崎良泉金閣寺佐分執事、清水寺森執事、銀閣寺山本執事、それに竹浪斗争委員長等打ちそろつて上京、全日仏をはじめ自治庁、衆参両院関係者と夫々強力に陳情する事になつた。

先ず三日午前全日仏に於て全仏幹部と充分打合せた後自治庁太田長官を始め関係各方面に直接面談して左の要旨に従つて詳細陳情懇談を乞はれた。

陳情要旨

一、万一回の観光施設税を許可する場合は許可に先立つて更に社寺側の納得を得るよ

う京都市長に要請せられた事。二、許可に際し別表中心より古文化財協会関係社寺(二)より(二〇)に至る十九社寺を削除せられたり。三、観光施設税委員会ととりと

かねて問題になつてきた京都の観光税問題は各方面の注視をあびてきたが去る九月十日衆議院の法務委員会ととり上げられる事となり当日は京都関係社寺側代表、全仏代表等多数が傍聴につめかけ真剣なる質疑応答を聞き入つていた。

この午前十一時より開かれた法務委員会では前半社会党猪俣代議士よりの質問による暴力団取締りに対する問題で牧野法相を始め政府委員との激しい応答の後午後二時頃之にかゝり、観光税問題は世耕代議士(民自)により本案の憲法違反、宗教法人法違反、文化財保護法違反の疑のある点を逐次質問したのに対し、文部省福田調査局長自治庁奥野税務部長、文化財保護委員会側の夫々の答弁あり、更に佐竹代議士(社会)の鋭い質問があり、要するにこの観光税に付ては自治庁としては京都市側の上申をうのみみせず、更に現地の社寺側の意向を尊重し、更に高く広く、国の文化財を保護し尊重すると云う立場から再検討をして欲しいと云う希望的質問に終つたのである。

観光施設税遂に許可さる 九月二十九日

これより後、現地陳情団は更に各方面へ働きかけた結果、河野農相のお声がかかり、六者会談(農林省分室)が行われたり、全仏幹部を交えた現地座談会が京都で行われる等自治庁の許可日時切迫を繞つてあつた。動きを見せたが何れも夫々三者三業で自分達に都合のよい考え方で動いた為仲々一致点を見出せず、加うるに現地側でも観光税許可と共に種々の事情から止むなく、この税に依りようとする社寺もボツ／＼現れる等一九社寺側の動きも複雑を極めて来たが去る廿九日左記の如き但書を副えて自治庁の許可は発表されたのである。

れる。然し乍ら現在の処未だその全日仏の本意が現地側に充分理解されているとは思えないが時を経るに従つて理解される事と信ずる。思うに観光税問題も一応之で表面的には終止符をうつかの如く見えるが実はこれからは問題で、条令発効と共に京都市と現地社寺側が如何に接渉し如何に協調するか本問題解決のほんとうの山である。願う所は社寺側が夫々の使命に目覚め、自己の特色を生かしつ

全一仏教運動強化促進論盛ん

全仏加盟団体代表者会議開かる

全日本仏教会の才三回中央講習会の才二日九月廿九日午後五時より全仏会議室に於て全仏加盟団体代表者会が開かれた。定刻すでに左記の廿数氏の他に全仏各局部長全員着席、先ず総務局長の挨拶に次で組織国際局長

インド副大統領来日

日本仏教徒との交歓行わる

去る十月一日インド副大統領ラダクリンヌナン氏が我国政府の国賓として来日したが、同月三、四日赤坂国会図書館はうおうの間に於て開催された「世界信仰同胞會議」に出席の後(別記)京都、奈良等の仏教都市を訪問され、夫々の仏教徒と交歓を深めたが、同月八日午後一時から同副大統領の送別を兼ねての歓迎大講演会が、全仏、日銀協会、アジア協会等五団体共催によつて東京大手町の産経ホールで開催される予定の処、七日昼過ぎ夫

協議報告事項

宗教法人法、観光税に関する件。宗教法人法、墓地問題に関する件。全仏活動資金負担の件。仏紀二千五百年記念伝道運動の件。沖繩問題解決国民運動の件。府県仏教会組織強化の件。各地方教化活動展開の件。ネパール及インド会議の件。英文仏教百科辞典の件等。出席各界代表者名 栗本俊道(東京仏教団)木至大孝(静岡果仏)高木貞隆(栃木果仏)藤田自然(岡山果仏)秦隆真(京都府仏)宮脇全(福井果仏)中野文門(兵庫果仏)安藤寿雄(新潟果仏)清野学道、木村秀定(宮城果仏)高坂空来(長野果仏)北之内真龍(埼玉果仏)植松威(朝日生命仏研)中濃教篤(近代仏研)藤原函玄

、国家の文化財であり、尊い宗教施設である事の誇りのもと、充分時局を認識して各社寺で夫々特色のある協調ぶりを発揮する以外に方途はないであらう。その後現地社寺側の動きも微妙でその氏子会又は檀信徒会との間にはさまつて市側に協調を声明した社寺も現われ仲々複雑の模様である。古文化財保存協会も役員を一新して再結束のもとその対策を考究中である。

去る十月一日インド副大統領ラダクリンヌナン氏が我国政府の国賓として来日したが、同月三、四日赤坂国会図書館はうおうの間に於て開催された「世界信仰同胞會議」に出席の後(別記)京都、奈良等の仏教都市を訪問され、夫々の仏教徒と交歓を深めたが、同月八日午後一時から同副大統領の送別を兼ねての歓迎大講演会が、全仏、日銀協会、アジア協会等五団体共催によつて東京大手町の産経ホールで開催される予定の処、七日昼過ぎ夫人が急病重態になつたとのしらせを京都で受けとつたため、予定を変更して七日午後五時五〇分伊丹発の日航機で東京へ向い、同日夜九時羽田発のBOAC機で帰国した、為に七日以降の副大統領歓迎の一切の日程は全部中止されるに至つた。尙副大統領は東洋哲学者として世界的な学者であり、ブッダガヤ寺院の管理委員長としても我々仏教徒とは極めて因縁の深い人である。インド哲学等の著書も多数あり、人格高潔なる政治家としても著名である。

仏紀二千五百年記念伝道

全国各地で着々々展開さる

仏紀二千五百年記念伝道は全日仏が本年初頭之力強く全国に提唱し、全国各府県市町村仏教会の自主的活動に於て夫々独特の仏教運動の展開をねらつたのであるが、仲々之が未端への主旨伝達が困難であつたが、それでも左記の通り主要なる府県に於て力強い叫びがあげられ、従来の仏教運動に見ざる熱意が結集された事は望外の効果であつた。

主なる実施会場左の通り(十月一日現在)

1. 富山県仏教会 講師セイロン大使スサン・ド・フ・フォンセカ氏(入善市 五月八日)
2. 長野県仏 講師セイロン大使、善光寺その他 五月九日
3. 新潟県仏 講師山本洋一氏七月四日より十六日まで、会場(三島郡関原町三島町、与板町、寺泊町、和島村等)
4. 岡山県仏 講師山本洋一氏七月廿六日より卅日まで、岡山市、西大寺市、矢掛町、倉敷市、津山市、笠岡市等で夫々果仏及び地元仏教会と共催で開催。
5. 北海道仏 講師ワインシュタイン氏、岡本泰雄氏、七月下旬より二週間道内十数ヶ所に於て夫々盛大に開催さる。
6. 野田市仏教会、講師山田霊林氏野田市、興風会館 十月四日
7. 静岡県仏 講師山本洋一氏(三島市、榑木果仏)講師山本洋一氏日光市、輪王寺
8. 右の他静岡市、浜松市、富士市、山口県の宇部市、愛媛県各所の開催が予定され目下各方面から之に関する照会が事務局に殺到している。

仏紀二千五百年記念 才四回野田市仏教会会議開かる

結成以来堅実なる活動を続けている野田市仏教会においては、仏教婦人会と協力のもとに去る十月四日午後一時より才四回野田市仏教徒会議を男女会員多数出席のもとに興風会館において開催した。

新会長井上静二氏の挨拶、本部側の諸報告に引続き山田霊林師の記念講演があり盛會裡に終了した。

中国殉難者遺骨送還団

報告会開かる、衆院才二会館で

八月下旬田崎健作氏を団長とする才六次中国殉難者の遺骨送還の一行は興安丸により中国へ渡り、予想以上の大歓迎をうけて無事帰国したのに於て九月十日午後一時より衆議院才二会館に於てその報告大会を開催した。一行中には北海道仏教連合会長の安藤専哲(東本サツポロ別院輪番)中濃篤篤師(日中仏教交流懇談会事務局長)らの仏教界代表も交り、よくその任務を完遂した事は各方面の賛辞をうけていた。殊に中濃師は一行の秘書長として大いに活躍し報告会に於ても詳細に報告していた。仏教界として特に注目させられた点は、左の二点であつた。

- ① 帰国の際興安丸に上海の西本願寺別院からの遺骨が送られて来たが船の出港前と何の連絡もなかつたので、出港後暫らくは御遺骨は何の慰霊の方法もなされなかつた。やがて知つて宗教代表は誠意をこめた慰霊法要を船中でやつたがこの事よりしても中国側の好意に對する配慮が比較的少い事が遺憾である。
- ② 尙この他中国には多くの邦人遺骨が放置されている様だが之を速かに日本へ送還する事は極めて重要な事と思う。この事に関しても右三団体が更に一層の熱意を示してくれる事を望む。

問題点を検討する

第一回宗教法人法研究会

去る十月六日清瀬文相は宗教法人審議会に宗教法人法改正について諮問を発したが全仏でも在来から同法改正問題については大きな関心をもつていたのでこの機会に關東、關西で夫々才一回の研究會を開き、加盟各宗派、都道府県仏教会の代表者並に仏教側の宗教法人審議会委員の参加を得て同問題につき検討を加えることになつた。猶、文部省よりは担当の宗務課長が出席する。因みに開催日付は左の通り

- 十一月七日一時 京都東本願寺
- 十一月二十三日一時 東京築地本願寺

世界信仰同胞會議

十月三、四日

インド副大統領を迎えて力強く開かる

インド副大統領ラダクリシヌナン博士を總裁として推戴する世界信仰同胞才十回国際會議は十月三日午後三時より東京赤坂の国会図書館(旧赤坂離宮)羽衣の間に於て開催された。先づ玉川学園合唱団によるインド国歌とリグ・ヴェーダの聖歌合唱裡に副大統領静かに入場着席、黙禱に次で金森徳次郎氏の歓迎の挨拶、名譽秘書S・ラオ・シヤストリ氏の挨拶中、中三郎委員長の挨拶が力強く行われた。次いでラダクリシヌナン博士の挨拶を兼ねての講演が三十分間に亘つて静かに然も力強く行われた。やがて終了と共に關係各国大使、來賓メッセージ、海外メッセージ披露が行われ、ベートーヴェンの歓喜の頌を以て閉會となつた。参加者は内外の代表有志、信者でさしものホールも満員の状況であつた。

尙前日の歓迎兼開會式を終えた本会は尙々四日午前十時より前日に引続き国会図書館ホールで開かれた。先づ午前には總裁、議長を推薦、議長には伊藤述史氏が推され左の議題に關して意見発表と討議とが行われた。

議題

1. 夫々異つた信仰、教義、儀式を有する諸宗教の教徒が衷心より手を握ることのできる共通の広場をいづくに見出し得るか。(提案 羽溪了諦氏)
2. ワールド、フエロシツプ・オブ・フエイスの理念とその今後の活動(提案、委員会)
3. 科学と宗教、哲学との調和(提案、ラオ氏)
4. 普遍的道德原理—國際親善の基礎として(提案 田中耕太郎氏)
5. 宗教と社会活動(提案 委員会)
6. 東洋思想が世界文化に寄与するもの(特に仏教のそれについて)(仏陀二五〇〇年を記念して) (提案 委員会)

特に午前中は各宗教の立場よりの意見が発表と世界信仰同胞會の理念、日本及國際間の組織等の問題に付て主として意見が発表され、更に之に關する質疑応答もあり、午後も引き続き議題に關する討議が行われ、最終にナ教、カトリック等々各国代表の熱論が展開された。最後に討議の結論の確認を行い、聲明書を発表して意義ある本會議の幕を閉じた。尙終了後有志による懇親會が同ホールに於て盛大に行われた。

長野縣仏教徒會議才五回大會

伊那市で盛大に開催さる

長野縣仏教会では南信那市仏教会、上伊那市仏教会、長野縣仏教青年連盟と共催の形で九月卅日午前九時より伊那市常田寺で果仏教徒大會を開催した。大會は先づ午前九時より伊那市常田寺で布教大會及び慰霊法要を執行數百名の信者による御詠歌奉誦大會で幕を閉じた。午後は同市自治會館に於て會議を開催大會委員長の挨拶善光寺尼公上人の挨拶に次いで全仏大谷会長メッセージを高坂委員が代読して多大の感銘を与えた。會議終了後プリンクリイ氏の記念講演が行われ、午後五時力強い大會宣言を発表して會議の閉會を宣した。尙会場階下に於ては郡市寺院出品の宝物書画展示會、華道各流派の展覽會が行われ終日観覧者で賑つた。

京都、宮城新陣容で出発

近畿仏教界の中心的存在として活躍している京都府仏教会と、東北における中心の宮城県仏教徒連盟では、今度時を同じくして左の新役員を選出し今後の活動を強化することになつた。

京都府仏

- 理事長 小川幽慎、常務理事 壺昇すゝむ
- 理事 山家惠誠、中戸型正、立花広海、伊藤現芳
- 事務局長 秦 隆真、川端健彦
- 事務所 京都市下京区烏丸松原上東入
- 宮城県連
- 理事長 清野学道
- 理事 村山正栄、足利イト、伊沢平和、城野謙光、樋口隆昇
- 事務局長 仙台市原町本通(電)二五〇八一